

公開質問状に回答できない下関市**犯罪被害者は自己解決？**ブログでも読
めます

昨年10月28日に7項目の公開質問状を前田晋太郎下関市長に提出したところ、「上記すべての質問に対して、これまで通知しているとおり回答いたしません。」と市長名で回答があった。（令和7年11月13日付）そのため同年11月28日付けで以下の質問について12月10日までの回答を求めました。

1. 先の回答「これまで通知しているとおり」とは当方の公開質問状の7項目のどれに該当していますか、質問項目それぞれに市が提出された公文書（何年何月何日の第何号）をお示しください。

2. 同じ加害者Uに対する市の告訴状は管轄の長府警察署が受理し、当人を事情聴取されながら、金山氏による加害者U等への告訴状を下関警察署に不受理とするようにしたのは事実ですか。

しかし、何の回答もなかったもので、12月12日に秘書課に電話を入れると空田秘書課長から「すでに廃棄物対策課が回答しておりもう回答しない」旨であったのだといわれ、そういう説明では納得できないと抗議して、再度12月19日付けで上記2件の回答を再度求める抗議文を届け、12月25日までの回答を求めた。12月25日、空田秘書課長から電話があったが、前と同じ回答であり、市の態度は変わらなかった。

詐欺犯のUらによる黒井不法投棄は同地を建設残土等の最終処分場と化し、莫大な処分費用を浮かせ私腹を肥やすことになったのだが、一切その犯罪行為は問われず、犯罪被害者に自己解決を押し付けたのである。

金山さんは事件後ほどなく、市の廃棄物対策課からは「あれは廃棄物ではないので廃掃法は適用できない」とごまかされ、犯人らへの告訴状も被害届も下関警察署には受理されなかった。

下関市は同一犯人による同一場所から発生した建設残土等の不法投棄により市有地4,322㎡を格安

価格で産廃業者に売却せざるを得なくなり、Uに対する民事提訴も刑事告訴も形ばかりで市港湾局の虚偽答弁で結局、誰もその責任を問われないようにしたこの事件の張本人を野放しにしたのだ。

市の告訴が受理されUが長府警察署で事情聴取されていた頃（下関市は平成23年6月10日にUに対して告訴状提出、同24年5月17日の市建設委員会ではUの言い分を認めて告訴取り下げを決定した）、平成24年1月19日、金山さんが下関警察署に告訴状不受理の理由を文書回答することを求めた時に、当時の同署生活安全課の永富課長に「市の回答に基づいて不受理を決めた」と言われたのであった。（録音あり）

このようにして下関市と下関警察署によって金山さんの被害の訴えは阻まれて来ているのである。これは法の下に仕事をすべき公務員の憲法第14条「法の下での平等」に明らかに反している。

誰でも犯罪被害に遭うことはあるが、もしも自分の被害の訴えを警察が受け止めないことを想像してほしい。もしも家が火事になって消防に通報しても来てくれなかったらどうなるだろうか。

金山さんの被害はそれと同一である。市による告訴は警察が受理し、金山さんによる告訴は不受理、同一犯人による同一場所の建設残土等の不法投棄、不動産侵奪であったにもかかわらず。

下関市を提訴するしかない

市が回答拒否のため後は下関市に対して金山さんが国家損害賠償を求めるしかない状況です。現在、金山さんは訴状をまとめており、弁護士を探しています。証拠資料は沢山あります。お心当たりの弁護士がおられたらぜひともご紹介ください。訴状ができましたらお知らせする予定です。

長生炭鉱水没事故84周年

犠牲者追悼集会

参加費は無料ですが、カンパをお願いします！

2026年2月7日（土）

○追悼式 10：30～12：30 追悼ひろば

- ・遺族の皆様による追悼行事
- ・世界のダイバー紹介
- ・日韓青少年による若者アピール など

○潜水・遺骨収容 海岸出発13：00～

遺骨収容プロジェクト スケジュール

- 1日 午前10時～ 記録潜水
3日 午前10時～ 記録潜水
5日 午後4時～ 記者会見（常盤ふれあいセンター）
6日 午前10時～2時半 遺骨収容
7日 午前10時30分～ 追悼式
午後1時～4時半 遺骨収容
8日～11日 午前10時～午後2時30分 遺骨収容

遺骨収容及び追悼集会ボランティアスタッフ大募集！

締切1/10(土) 右QRコードで手続可能



《2025年度全国行動山口行動（講演と街頭行動）》

（講演） **マイノリティライツとしての民族教育**

否定と肯定、及び国際基準からみた課題

2月17日（火） 13時開場

○13時半開始～16時（講演） ○16時20分より17時（駅前チラシ配布）

場所：生涯学習プラザ宙（ソラ）のホール 資料代500円

講師 岡本雅享（まさたか）先生

【略歴】 1967年生まれ。一橋大学大学院社会学研究科博士課程修了（国際学修士、社会学博士）。中央民族大学（北京）留学、サンフランシスコ州立大学客員研究員で中国（1990～93年）、米国（2008～09年）滞在。1989年より在日韓国人問題研究所(RAIK)国際人権部会、IMADR（反差別国際運動）事務局員（1993～96年）や移住者と連帯する全国ネットワーク（移住連）事務局次長（2004～14年）なども歴任。現在、福岡県立大学人間社会学部教授、明治学院大学国際平和研究所(PRIME)研究員。専門は政治社会学・民族学。著書に『日本の民族差別』（明石書店、2005年）、『中国の少数民族教育と言語政策』（社会評論社、2008年）、『民族の創出』（岩波書店、2014年）など。

共催：朝鮮学校を支援する山口県ネットワーク・補助金対策委員会

山口県知事選挙(2月8日投票日) は大久保雅子(おおくぼ まさこ)候補を！